

## エネルギー計画推進会議のこれまでの意見を踏まえたアクションプランについて

## 1 エネルギー計画推進会議での検討内容

- エネルギー計画で掲げる目標達成のための13のリーディングプロジェクトから次の視点を踏まえ、重点的に取り組む4プロジェクトを選択し、検討。

## 【視点】

- 直接的な効果には時間を要するが、大きな推進効果が期待される施策
- 省エネ等のポテンシャルが高い事業者等を対象とした施策
- 市民・事業者の自発的な取組を促す有効な施策

**再生可能エネルギーの導入促進**

- ・市民が参加可能な仕組みづくり
- ・エネルギーツーリズムの実現

**省エネルギー化の推進**

- ・事業活動のエネルギー消費の効率化

**未来へつなげる担い手の育成**

- ・市民・事業者の取組促進に向けた牽引者の育成

## 2 エネルギー計画推進会議でのこれまでの意見

## (1) 全体

- 再生可能エネルギーの利用や省エネルギー化の推進は、市民、事業者が主役、行政はプログラムをサポートする役目。
- 市民、事業者に知っていただき、機運を盛り上げるような仕組み（ワークショップ、勉強会など）が必要。
- これまでの動きは、行政、事業者が中心であり、市民の活動が手薄になっている。市民が当事者意識を持ち、主体的に参加できる場づくりが必要。
- 民間事業者が及び腰になってしまうところや市民が手を出しにくいところに行政が相談窓口を設置するなど関与することも必要。
- 市民活動の横のつながりを持たせてはどうか。教育に取り組んで家庭に持ち帰り、家庭から輪を広げていくのも一つ。

## (2) 個別プロジェクト

## 【市民が参加可能な仕組みづくり】

- 貢献していることが実感できる「認証制度」の導入。
- 省エネ、再エネを実際に取り組んでいる事例紹介による参加感の向上。
- エネルギーカフェなどによる地域でいろいろな取組をしているグループにフォーカス。
- 実利を伴った取組。

### 【事業活動のエネルギー消費の効率化】

- 事業者が省エネに取組めない原因として、資金不足がある。
- 事業者の規模や業態にあわせた成功事例や勉強会の開催により取組意義、メリットの認識。

### 【エネルギーツーリズムの実現】

- ツーリズムの実現には、コンセプトが必要であり、どういった人を対象としたツーリズムにするのか、みんなで考えていくのがひとつの軸とする。
- まずは、学校での教育の場面で取り組み、市内での価値の共有をしていくことが必要。
- 候補地は、メガソーラー、東電の水力発電所、小水力発電所遺構、事業者の省エネビルの取組、松永耳庵邸宅などがあり、ソーラー提灯の製作、工場見学、スタンプラリーなど体験型ツアーとあわせて組み立てる。

### 【市民・事業者の取組促進に向けた牽引者の育成】

- 小田原の存する多くのコミュニティをネットワーク化するワークショップの開催。
- 次のフェーズに進むため経済的な裏付けを持たせ、ターゲットを絞ってインパクトのある政策が必要。
- 成功した人から牽引者が広がっていく可能性がある。
- エネルギーカフェのような相談できる環境が必要であり、相談できる人のリストを市でつくることができればよい。
- 省エネルギーセンターの「エネルギー診断プロフェッショナル」「家庭の省エネルギーエキスパート」という認定制度があるので、それらを活用して育成。

## 3 8月6日 ワークショップ「エネルギーの地域自給について考える」での意見

- 市民一人ひとりの取組が不可欠であり、普及啓発活動が大切である。
- 市の取組を知らない人がほとんどである。まずは、市の取組を発信することが重要。
- 再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化の推進に取り組んでいる団体は複数ある。
- 個人や地域の取組を促すためのポータルサイトがあると良い。各団体を紹介することで団体活動を応援するとともに、団体間の交流を促進することができる。
- 自治会単位でのエネルギーの取組も重要。
- エネルギーの取組について、ごみの分別調査のように地域ごとに競ってもらったら面白いのではないか。
- 機運の醸成に当たっては、教育が重要。
- エネルギーを自分ごととして捉え、皆に考えてもらうことが担い手の育成に繋がる。

## 4 ご意見を踏まえたアクションプラン

- 経営改善の観点を踏まえた市内事業者の省エネルギー化の推進
- エネルギーカフェ@おだわら
- 地域における再エネ・省エネに関する取組の登録制度
- 小田原市における再エネ・省エネの率先行動等